

# I G S NEWS 抄訳

VOL. 11 NO. 3 NOV. 1995

I G S日本支部 編集委員 大倉史郎

**理事の改選(p1)バタースト副会長** I G Sの内規により2年ごとに理事の半数が改選されることになっているが、今年はその年にあたり5月に郵便投票が実施される。本年6月で任期満了となるのは次の6理事である。

赤木教授、クリストファー博士(USA)、ジュエル博士(ベルギー)、

ローソン氏(イギリス)、ジョーンズ教授(イギリス)、バタースト教授(カナダ)

この中、ジョーンズ、バターストの両教授はI G Sの会長、副会長として自動的に理事会のメンバーとなるので立候補しない。あとの4理事は再選可能である。今回改選されるのは8議席で、I G Sの会員であれば誰でも立候補できる。但し、年1回の理事会に出席することが条件である立候補の締め切り期限は2月14日、立候補者はI G S NEWS 3月号及びインターネットのホームページで紹介される。問い合わせはI G S事務局またはジョーンズ会長まで。

**会長メッセージ(p2)** 昨年、新しい理事会が発足して学会の将来のニーズの見極めと会員へのベストなサービスを行うための方策作りを開始したが、これらの結果をこれから見ていくことになる。そのひとつは、学会の経理について独立法人の完全な監査を受けることであり、また、これから注目されるのは教育に関する学会のイニシアティブで、ビデオその他の教材を作成して配布することが進行中である。尚、1996年は第1回ヨーロッパ会議が開かれる年である。

**学会の財務運営(p2-3)フォスカンプ経理担当理事** 学会の発展に伴い財政規模も拡大し、年間予算は1994年で約15万ドルとなった。一方、剰余金は約17万ドルに達し、この中約10万ドルは証券投資で運用しており、元金は緊急用資金として確保するとともに利息は通常の収入として処理されている。学会の経理報告は毎年公認会計士によりレビューされ、更に4年に1度は完全な監査を受ける。又、学会の経理方式は従来、現金出納ベースで行っていたが、規模の拡大と共に支払いが年度をまたがるものがふえ複雑化してきたので、これを発生ベースに切り替えることとして、95年の分から実施している。昨年の理事会の決定により、これまで4年に1度であった公認会計士の完全監査を毎年実施し、その結果をI G S NEWSに発表する。

**第7回I G S大会のスポンサー求む(p3)** 2002年に開催する第7回I G S大会の開催を引き受ける支部又は団体を募集している。もし、その意向があれば1996年6月3日までに文書で申し入れをしなければならない。詳細は事務局へ。

**I G S教育プログラム(p3-4)スティーブソン事務局長** 昨年9月の理事会決定にもとづき新しいI G S教育プログラムがスタートする。まず、教育用ビデオ「ランドフィルにおけるジオシン

セティックス」を配布する。その為、各支部ではこの教材を有効に使用できる最適の教育担当者を推薦してほしい。IGSは2本目のビデオとして「交通輸送におけるジオシンセティックス」を作成中で、更に、オランダ支部の「水理への応用」、北米支部の「廃棄物処分場への応用」のスライドを教材化していく予定である。支部や他の機関で教材にできるようなものがあれば提供ねがいたい。各支部長はこれらの教材をうけとるべき教育機関又は教育担当者の名前を1月末までに事務局へ連絡してほしい。

**法人会員としての利点(p4)スティーブソン事務局長** 法人会員としてIGSに加入した場合の利点としては先ず、広告効果がある。学会の年度ごとの名簿に1ページの広告スペースが与えられ、インターネットのホームページにもものせられる。IGS NEWSに「企業の横顔」として歴史、業績、活動状況などを紹介する機会があり、又、IGS NEWS毎号に法人会員リストが掲載される。広告以外の利点としては、会議や展示会の参加料、出展料の割引、学会の活動や行事への発言権、学会のスポンサーとしてのステータスなどがある。

**個人会員としての利点(p4)スティーブソン事務局長** 教育担当者、メーカー、一般の会員がそれぞれに必要な文献、資料、ニュースなどを入手することができ、会議への参加、出版物の購入に特別レートが適用され、IGSのロゴを使用することができる。

**法人会員の継続性(p5)スティーブソン事務局長** 会員企業が買収され、オーナーや名称が変更になった場合、その時点から改めて会員になったものとして取り扱ってきたが、名称やオーナーシップがかわっただけで実態に変更がない場合これでは継続性が失われるので、昨年9月の理事会での決定で、最初の入会時期からそのまま継続していることに改めた。遡って実施する。

**1995年IGS名簿学生会員に配布(p5)バタースト副会長** 1996年版編纂中であるが前年分の残余があるので、学生会員希望者に配布する。連絡は事務局まで。

**IGS表彰(p6)バタースト副会長** 1992～95年の4年間における顕著な業績に対して表彰が行われる。賞はIGS賞と36才以下を対象にしたIGS奨励賞の2種類、対象はIGS会員で個人またはグループ。但し、会長と表彰委員会の委員は除く。候補者の指名はIGS会員の外委員会や支部からも可能である。又、自薦も認められる。指名の期限は1月31日である。詳細は事務局へ。

**IGS表彰受賞者の業績(p7)バタースト副会長** IGS表彰をより質の高いものとするため、先の第5回大会で表彰を受けた受賞者に受賞内容に関連したテーマでの寄稿にIGS NEWSの誌面を提供することにした。カーナー博士がこれに応じて提出されたものを次に掲載する。

**ジオシンセティックス設計の実際(p7-8)カーナー博士** ジオシンセティックス設計の要点は、材料の物性と現場で要求される特性の対比から、安全率をどう設定するかということにある。材料の物性としては、材料力学的には強度特性がとりあげられ、引張り、圧縮、曲げなど特定の応力

状態に対応する特性を、ジオシンセティックスの分野からは、分離、補強、濾過、排水、止水といった機能に対応する性質をきめることが設計者の判断にかかってくる。なお、このような材料物性については各国の公的機関で基準作りがすすめられている。一方、現場で要求される特性は土質工学、水理学などの観点から得られるものである。安全率を設定する手法としては今のところまだ完成した段階にあるとはいえ、もっとよく適合した設計モデルが必要とされている。過去20年間の数多いジオシンセティックス設計の中で失敗例が非常に少ないということからみて間違った方向にはすすんでいないものと思われる。今のところ、ジオシンセティックス設計技術は少数の技術者の範囲にとどまっているが、これをもっと拡げることが必要である。教育の欠如がジオシンセティックス技術普及の妨げになっているともいえる。例えば、全米で土木工学科を持つ大学は約600あるが、ジオシンセティックスのコースをもっているのは僅か15である。教育を強化するために I F A I や I G S で教育担当者を教育するという動きが進行している。又例えば、N A G S の会議に併設される8時間コースといったプログラム、ビデオカセットなどの教材により遠隔地や独学でも学習できるようにすることも有効であろう。ともかく、長期的にみても教育の重要性は異論のないところで、この為、各自がそれぞれ持っている知識を他にも分けていくことが必要である。

**龍岡教授がマーサーレクチャーラーに(p8)バタースト副会長** 1996～97年のマーサーレクチャーラーに日本の龍岡文夫教授が選ばれた。同教授のレクチャーは「重要永久構造物としてのジオシンセティックス補強土よう壁」のテーマで本年9～10月のEuroGeolで実施される。その外に、時期、場所未定であるがアメリカ、アジアで各1回行われることになっている。(本件については本誌前号P7で既報)

**I G S 欧州活動委員会議事録(p9-10) ローソン E A C 事務局長** 1995年5月3日ルクセンブルグで開催、各国の代表者が集まり、主としてEuroGeolにつき検討した。EuroGeolではできるだけ参加対象を拡げることとし、参加者の50%を新しいメンバーで占めることを目標に呼びかけする。会議案内第1号は昨年5月関係先に送付済、第2号は今年2月に出す。併催するISO TC21会議、I G S 理事会の日程が検討されたが本会議に先立つ週末となる見込み。2000年予定のEuroGeo2開催国の募集、1997年ハンブルグで開催予定の国際土質基礎工学会への協力も話題となった。

**EuroGeo1進行中(p10-11)** 準備は順調にすすんでいる。提出論文は140篇、各分野に適当に分布、2500㎡の展示場は満杯、これはEuroGeo1の中心となるであろう。

**I G S 数式、図形シンボル第3版(p11)** 昨年12月に完成した。この版ではジオシンセティックスの機能や基礎的な用語を含め、又、従来のものに多少の変更があった。希望者は事務局へ。

**I G S 名簿の作成(p11)** I G S が所有するデータベースに基いて、毎年1月1日付で名簿を発行する。データベースは年4回改訂する。年3回のI G S NEWS 発送の時と、年末の新名簿

作成の時である。正確な名簿作成のためには会員、支部の協力が不可欠。

**北米支部活動状況(p11-12)** I G S 支部紹介として別に掲載した。(本誌 p11 参照)

**GEOFILTER`96(p13)** ジオシンセティックスの水理学的応用として、5月29日から31日、カナダのモントリオールで開催される。会議では60以上の論文が発表される予定である。数多くのトピックスが含まれている。ジルー博士による「天然とジオシンセティックスフィルターの相似点と相違点」という特別講義、本会議前の「エロージョン防止のためのジオシンセティックス」というショートコースなどが計画されている。展示会もある。

#### **法人会員紹介(p14)**

・Geofabrics (イギリス)

イギリスでは有数のジオテキスタイルメーカーで、主として、ランドフィルにおけるジオメンブレン保護材及び川や海岸防護用フィルターとしてのジオテキスタイルの広汎な製品を製造している。工場はコンピューターでコントロールされた最新式プラントで、特に広巾ものに力を入れている。製品はニードルパンチ不織布。

**ランドフィルライナーシステムズレポート刊行(p15)** 300ページ以上に上るレポートがオリジナルのドイツ語から英語に翻訳、出版された。ランドフィルライナーシステムに関する広範囲なトピックスが収録されている。価格は47.50ポンドプラス送料13.50ポンド、申し込みは下記へ。

D. M. Anderson, Research Manager, Solid and Hazardous Waste Research Unit

Department of Civil Engineering, Drummond Building,

University of Newcastle upon Tyne

Tyne and Wear, NE1 7RU,

UNITED KINGDOM,

Tel;44(0191)222-5099 Fax;44(0191)222-6613 email;D. M. Anderson@newcastle. ac. uk

**サルディニア`95(p15)** 38ヶ国から940名が参加した。議事録は3巻、2600ページ250の論文が収録されている。価格は70万リラ、申し込み先は次の通り。

CISA-Environmental Sanitary Engineering Center, Cagliari

Via Marengo 34, 09123 Cagliari, Italy.

会議の内容については、本誌前号に三井石化産資(株) 平井氏のレポートがある。

**Geotextiles & Geomembranes出版社レポート(p16)** 発行部数を年8回から12回に1994年から実施したが、その後、出版物や会議の増加により1995年は12回の発行が困難になり、一部を1996年に繰り越すこととなった。その結果、1997年には年6回の発行に戻ってしまうことになりそうである。現在、30篇以上の論文出版準備中であり、カーナー博士の論文を含む数篇の特別版も刊行予定である。I G S 会員に対する特別レートや投稿歓迎は従来通り。

Geosynthetics International (p16) IGSの機関誌としてIGSのロゴを冠して出版されている。従ってIGS個人会員には99ドルの割引レートが適用される。(通常225ドル)  
未発表の論文は投稿歓迎である。最近号の主要目次紹介あり。

予定されている国際会議など(p18)

- ・ Geofilters`96 Montreal, Quebec, Canada 29-31 May 1996
- ・ Third International Symposium on Environmental Geotechnology  
San Diego, California, USA 10-12 Jun 1996
- ・ EuroGeol Maastricht, The Netherland 30 Sep-2 Oct 1996
- ・ 3rd RILEM Maastricht, The Netherland 2-4 Oct 1996
- ・ EPS Tokyo`96 東京 29-30 Oct 1996
- ・ IS-Osaka`96 大阪 5-8 Nov 1996
- ・ IS-Kyushu`96 福岡 12-14 Nov 1996
- ・ Geosynthetics`97 Long Beach, California, USA 11-13 Mar 1997
- ・ 6th International Conference on Geosynthetics  
Atlanta, Georgia, USA 25-29 Mar 1998